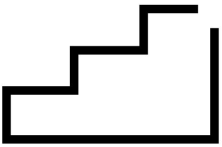


子どもの貧困に、本質的解決を。

Learning
for
All 

ベネッセこども基金MeetUp

1. Learning for All の団体概要

2. 子どもの貧困の現状

3. LFAの事業について

4. これからの子ども支援に求められること



1. Learning for All の団体概要

2. 子どもの貧困の現状

3. LFAの事業について

4. これからの子ども支援に求められること

子どもの貧困に、本質的解決を。




Learning for Allは「子どもの貧困」解決をミッションとし、子どもへの包括支援を行っています。


団体名	特定非営利活動法人 Learning for All (2010年活動開始、2014年法人設立)	
実績	支援した子ども数	のべ 10,500人 以上
	ボランティア参加者数	のべ 2,500人 以上
	連携自治体数	のべ 10自治体 (葛飾区、板橋区など)
	表彰	<ul style="list-style-type: none"> • 東京都「北区改革プランベスト1」受賞('11) • 第5回エクセレントNPO大賞受賞('18) • Forbes JAPAN 30 under 30に選出('18)
代表	代表理事 李炯植	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 東京大学大学院教育学研究科修士 ✓ 貧困地域で育った原体験から、子どもの貧困問題解決に大学在籍時から取り組む ✓ 一般社団法人 全国子どもの貧困・教育支援団体協議会副代表理事 ✓ 「内閣官房のこどもの居場所づくりに関する調査研究」検討委員
		

6~18歳の子どもへの包括的な支援を実施


学校内学習支援
 (小学校4年~中学校3年)




公民館学習支援
 (小学校4年~中学校3年)




中高生の居場所拠点
 (中学校1年~高校3年)



小学生の居場所拠点
 (小学校1年~6年)



子ども食堂
 (小学校1年~高校3年)

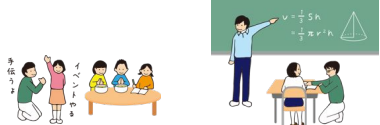


その他の支援

- 家庭訪問支援
- 家庭への宅食支援
- 保護者の相談支援
- オンラインでの学習支援

■支援エリア

- 東京都葛飾区、板橋区
- 埼玉県戸田市
- 茨城県つくば市
- 兵庫県尼崎市



活動内容



1. Learning for All の団体概要

2. 子どもの貧困の現状

3. LFAの事業について

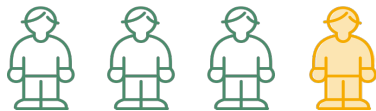
4. これからの子ども支援に求められること

「貧困」の状態にある子どもは**全国約260万人**にもものぼります。

子どもの貧困を放置すれば、**格差の世代間連鎖**を引きおこし、

政府の**財政負担は1.1兆円増加**と言われています

日本の**7人に1人の子ども**が、
「**貧困**」*状態にあります。



(2019年厚生労働省調査による2018年の子どもの貧困率)

※1 その国の中の生活水準に対して、適正な水準での生活 (普通の生活)を送ることが困難な状態を相対的貧困と定義しています。

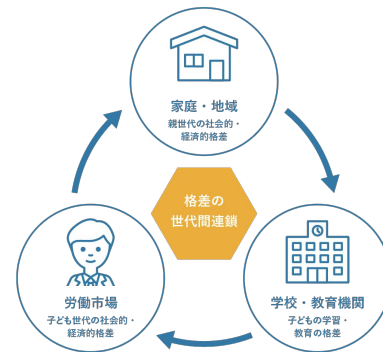
コロナの影響が貧困の連鎖の後押しに

学習機会の喪失・
学力格差のさらなる拡大

満身に食事がとれない

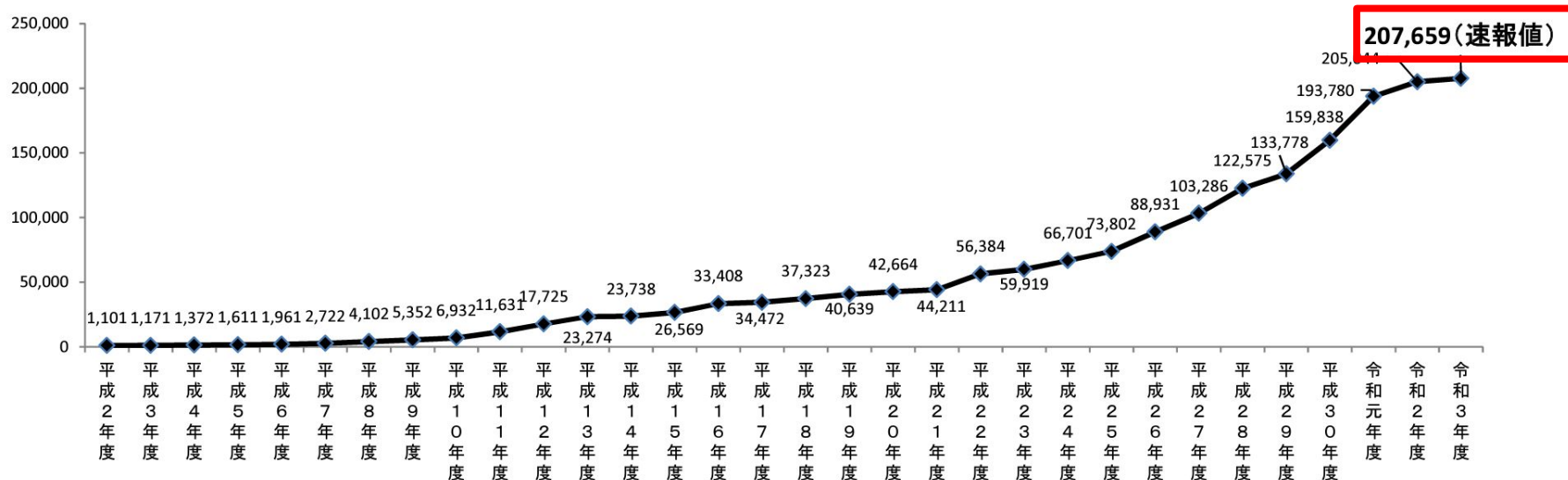
生活リズムの乱れ

児童虐待の増加



コロナ禍によって様々な課題がより深刻になっており、
令和3年度(2021年)は児童虐待相談対応件数ともに過去最高を記録。

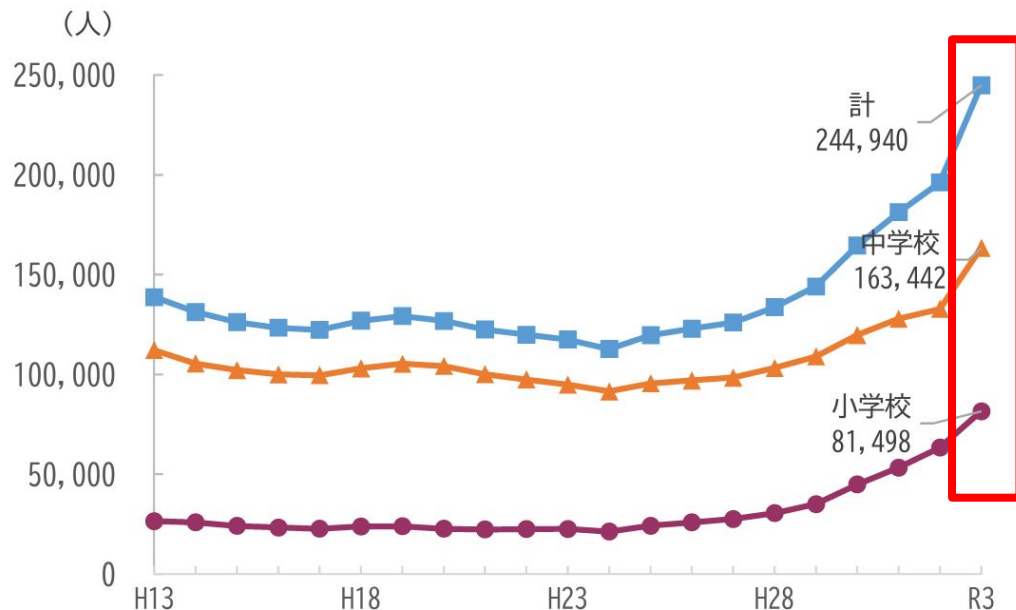
前年度より2,615件(1.3%)増え20万7,659件となっています。



■厚生労働省

「令和4年度全国児童福祉主管課長・児童相談所長会議資料」より

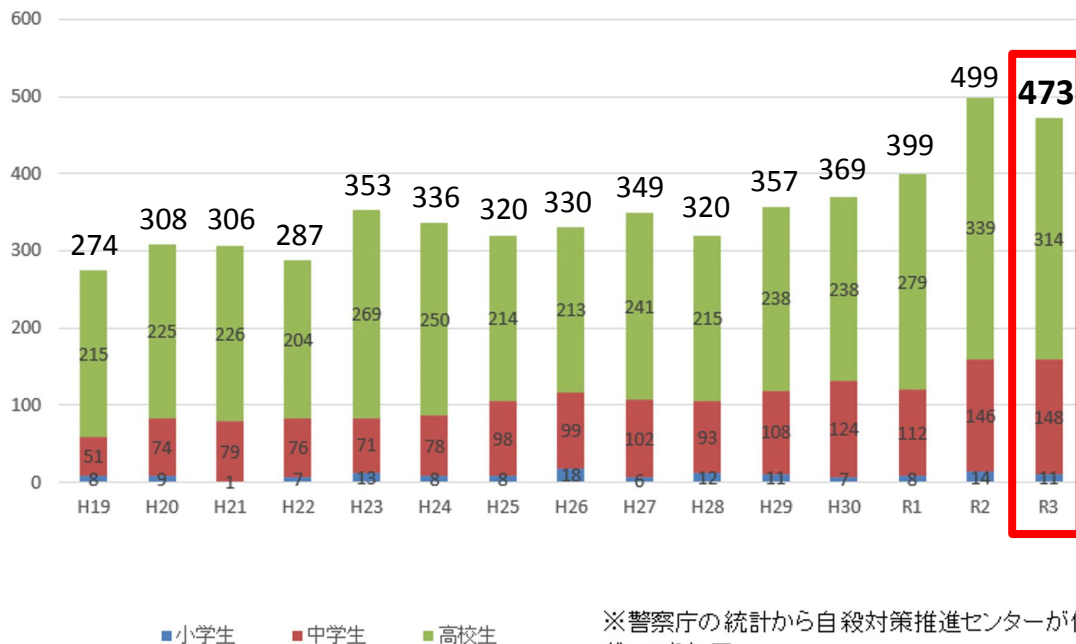
同様に不登校児童生徒数に関しても
小学校・中学校ともに過去最高となっています。



■文部科学省
「令和3年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」より

児童生徒の自殺者数は令和3年時点で過去2番目となる473人を記録。

令和2年と変わらず最悪水準が続いています。



■文部科学省

「コロナ禍における児童生徒の自殺等に関する現状について」より

※警察庁の統計から自殺対策推進センターが作成したグラフを加工

コロナ禍によって様々な課題が加速する中、
子どもたちは**経済的貧困**を背景として、
様々な不利や困難が複合的に折り重なった状態にあります。



小学三年生 Aくん

- #生活保護
- #両親未就労
- #多子世帯
- #欠食あり
- #ネグレクトの疑い



高校生 Bさん

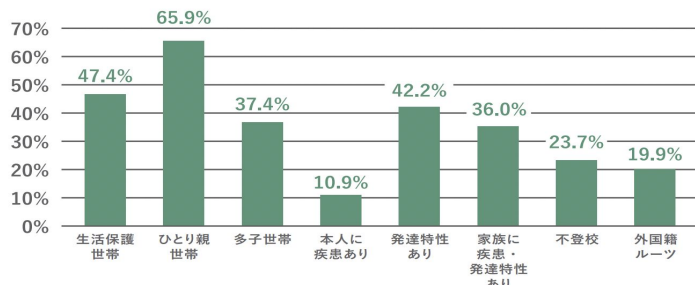
- #ひとり親世帯
- #親の精神疾患・体調不良
- #発達障害疑い
- #学力不振
- #進路未決定
- #ヤングケアラー

グラフで見てもLFAの支援につながった

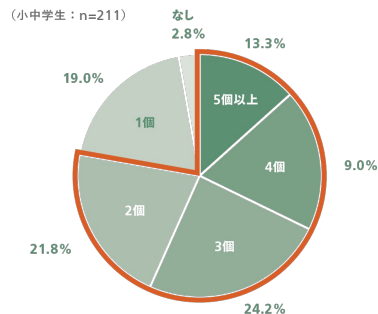
子どもの約8割が1人あたり2個以上の属性を持っています。

複雑に絡み合った課題が「子どもの貧困」という課題をより根深いものにしていきます。

【グラフ1】LFAの支援に繋がった子どもの属性(課題)
(小中学生:n=211)

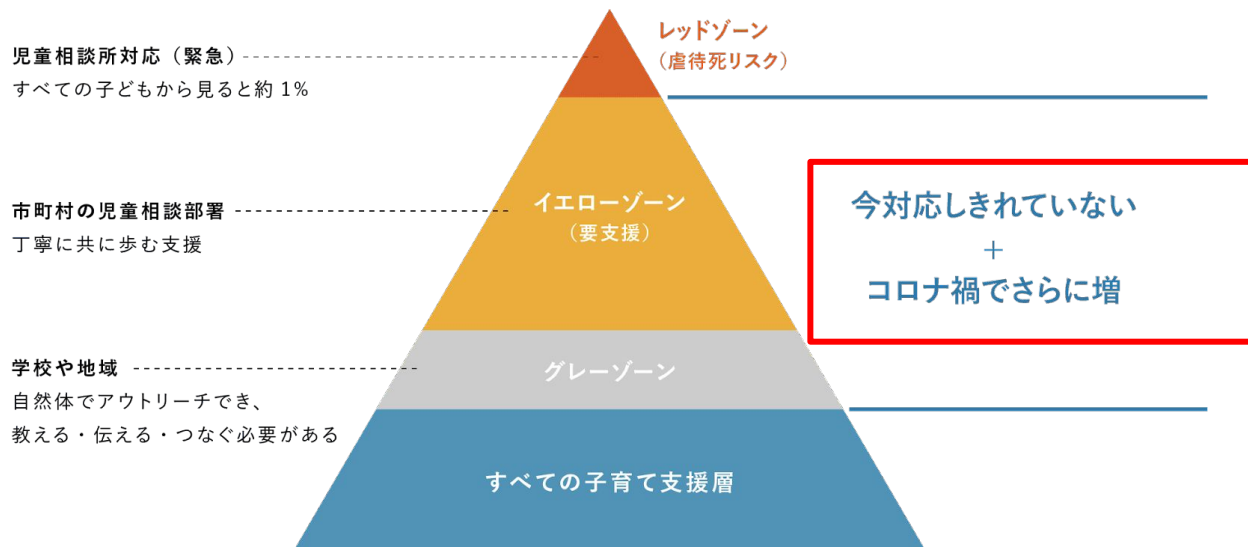


【グラフ2】1人あたりの子どもが抱える属性(課題)の数
(小中学生:n=211)



約8割の子どもが1人あたり
2個以上の属性(左記グラフ記載)を持っている

支援が必要にもかかわらず、支援が行き届いていない子どもがいます。
既存の子ども支援では、**質・量ともに足りていません。**



※大阪府立大学 山野則子教授「学校・家庭・地域の教育力を機能させる仕組み作り
～学校プラットドームの実現に向けて」を元に改変

子どもたちを支援している大人たちにも、それぞれの立場で様々な制約があり、継続的な支援の提供が難しい実態があります。

家庭(行政による支援)

- 人手が足りない。
- 学校やSSWとも情報交換できればと思うが、最近は**個人情報**の関係で**連携が層難しくなった**ように思う。
- 保護者支援が主なため、子どもの様子は情報が入らないことも…。
- **子どもの支援現場がどこにあるか、どう繋いでいいかわからない**…。



学校

- 時間が足りない、人手が足りない。
- 相談するにも**個人情報をどこまで伝えていいのか**…。
- **ケースごとに相談先も違う**、どこに相談したらよいか…。
- 他機関との連携も大事。連携先の情報をもっと欲しい。
- **学校からの申請がないと動けない**…。

地域(学校外の支援)

- 他**の関連機関ともっと子どもの様子を共有できれば**より良いサポートができるのに…。
- 気になる子がいても、どこに相談したら**良いのか**…。



1. Learning for All の団体概要

2. 子どもの貧困の現状

3. LFAの事業について

4. これからの子ども支援に求められること

LFAによる3つのアプローチ

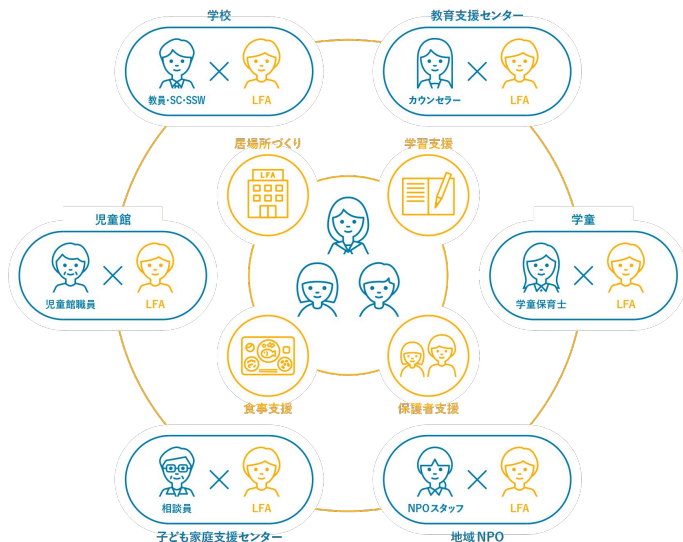
今、目の前にいる子どもにどこまでも寄り添い、支え抜くこと。
一つの団体ではできない大きなうねりを生み出し、
社会の構造そのものを変えていくこと。

その両方を実現しなければ本当の意味で問題を解決することはできません。
私たちは、現場のリアルな知見を社会に広げていく
3つのアプローチで、子どもたちの未来をつくっています。



「地域協働型子ども包括支援」の実践

地域のあらゆる立場の大人たちのネットワークをつくり、
支援の必要な子どもを見逃さず、早期につながる。
成長段階に合わせ、必要なサポートを6～18歳まで切れ目なく行う。
そんな「地域協働型子ども包括支援」を展開しています。



地域の大人の
支援ネットワーク作り

×

子どもたちへの
包括的な支援提供

LFAの提供する支援メニュー

6～18歳の子どもたちの状況に合わせて、幅広い支援内容を柔軟に展開しています。



居場所づくり



学習支援



食事支援



訪問支援



保護者支援



困難な子どもほど支援に繋がりにくいが、LFAは学校・行政・地域の方々との連携を通じて、困難層へのアウトリーチを可能にしている。

①
地域ネットワークの活用によるアウトリーチ

学校連携

- 学校内で学習支援やTT支援を行い学校との連携を強化
- 管理職・教員・特別支援コーディネーター等と連携し、学校の中で困り感のある子どもを学校内拠点に繋ぐとともに、学校外の支援を紹介し、学校から学校外の支援へも接続できるように工夫

行政連携

- SSW、ケースワーカー、子ども家庭センター等の関係機関との連携を行い、ニーズのある子どもをLFAに紹介いただく(チラシ提供や保護者への告知)
- 定期的な情報共有や事業報告を通じて「顔の見える関係」を築き、子どものニーズを把握し、早期に支援につないでもらえるよう連携

地域連携

- 民生委員・主任児童委員と連携し、気になる子どもを拠点に繋げてもらえるよう打診。子ども食堂等と一緒に参加しLFAへと接続。
- 児童養護施設や他NPOとも連携し、子どものニーズによって社会資源同士が連携し合う関係を構築。

②
行政との協定事業によるアウトリーチ

データ活用

- 行政内部で、教育部局・福祉部局の子どもデータを統合し、データベースを作成。虐待履歴や経済困窮などのデータから困難を抱える子どもを発見し、関係機関に共有。
- 自治体とLFAで協定を結び個人情報共有を可能にし、LFAの支援拠点にも子どもを紹介できるように工夫。

訪問支援

- データにより抽出されたリスクの高い家庭に対して、LFAが訪問型のアウトリーチを行い、相談支援を行った上で、必要な支援に接続する



「地域協働型子ども包括支援」の全国展開

現在の日本では、子ども支援に関わる人・団体の努力にも関わらず、支援の「量」「質」ともにまだ足りていないのが現実です。

LFAでは、これまで培ってきた実践的な支援のノウハウを、全国の子ども支援団体や企業に提供。日本中の子ども支援者がつながるネットワークづくりにも取り組むことで、「地域協働型子ども包括支援」の全国展開を推進しています。

e-learning/教材等の提供



子ども支援を行うために必要な研修をオンラインで受けられるサービスや、市販の教材では対応が難しいお子さん向けのオリジナル教材を提供しています。



「こども支援ナビ」の運営



困難を抱える子どもに対する学習支援・居場所づくり・子ども食堂などを運営する方向けの情報発信 / 相互ナレッジシェアサイトを運営しています。

子どもたちを取り巻く社会構造そのものを変えるために

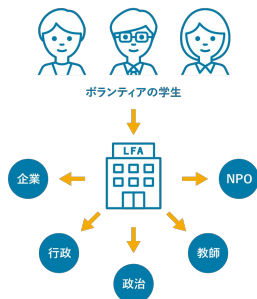
目の前の子どもにどこまでも寄り添う。その重要さは疑う余地がない一方で、問題を真に解決するためには世論の形成や、社会の仕組みを変えていく必要があります。LFAは現場での支援活動や、全国の子ども支援団体とのネットワークづくりを通して、**課題の普及啓発・人材育成・政策提言**に取り組んでいます。

課題の普及啓発



- ・メディアでの発信
- ・企業での研修
- ・活動説明会

人材育成



- ・ボランティアとして関わった大学生の育成

政策提言



- ・国や自治体への政策提言
- ・調査報告書の公開

コロナ禍では**オンライン指導**や**フードパントリー**をはじめ、 支援家庭のニーズを把握すべく2回に渡り**実態調査アンケート**も**実施**しました。

■オンライン指導

タブレットやWi-Fiを支援家庭へ無償貸与し、学習支援を実施。
オフラインと変わらない質で支援を届けられるように工夫をしていました。



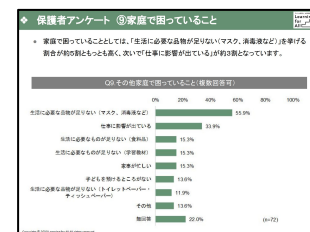
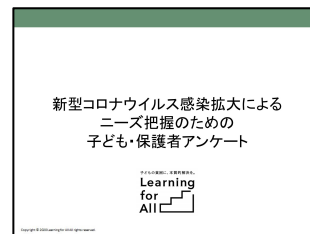
■フードパントリー

配布する食材などを確保しそれを拠点等で配っていくことで、人と人とのつながりを作り、結果的にコミュニティ形成にもつながりました。

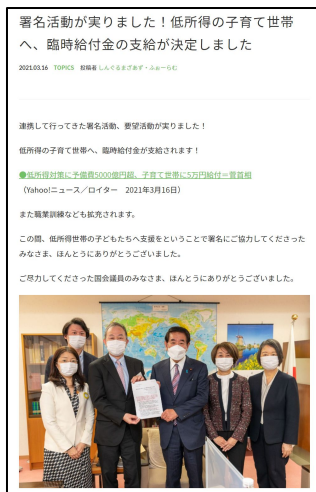


■アンケート調査

子どもや保護者が本当に必要としているものを把握すべくアンケート調査を実施。
生活物資支援や保護者の個別支援も積極的に行いました。



この1年で**低所得の子育て世帯への臨時給付金支給に向けて署名活動**の実施や、
岸田総理大臣、後藤厚労大臣の来訪 など、
「**子どもの貧困**」に対する**社会の関心の高さ**が見られます。



⇨2021年3月
「しんぐるまざあず・ふぉーらむ」ブログより



⇨2021年9月
岸田総裁(当時・自民党総裁)が
小中学生向け学習支援拠点に来訪



⇨2021年11月
後藤厚労大臣が中高生向け居場支援拠点に来訪

貧困という課題を”社会の構造から変える”べくこれからも活動を続けてまいります。



1. Learning for All の団体概要

2. 子どもの貧困の現状

3. LFAの事業について

4. これからの子ども支援に求められること

「こどもまんなか社会」の実現のために

- ①子どもの声を聴き、大人が学び続け、立場を越えて協働すること
- ②子どものwell-beingを追求する子ども支援へ

上記2つが大切だと考えています

① 子どもの声を聴き、大人が学び続け、立場を越えて協働すること

- 子ども観の転換が必要（×劣った存在、能力のない存在）
- 子どもを権利主体と見なし、その声を聴き、対話することで、大人は社会の無意識の前提や構造的課題に真摯に向き合う
- 縦割りを越えて、行政・民間それぞれが、子どものために連携協働すること

②子どものwell-beingを追求する子ども支援へ

投資アプローチ

- 子どもを経済成長のために有用な投資対象として考え、子どもの貧困を放置しておくのは経済損失であるという視点からのアプローチ(志賀,2018:115)。
- 投資アプローチによる貧困対策が前景化していくことにより、①投資に値する子どもの選別とこれによる社会への影響②無用な世代間分断の生起という2つのネガティブな影響が懸念される。
- 特に①により、投資に値しない子どもを生み出してしまい、子ども本人が社会の要請する「能力」を持つか否かで排除されうる可能性が生じてしまう。

Well-beingアプローチ

- 「投資アプローチ」に対して志賀は「well-beingアプローチ」を提唱し、子どもの「幸福」を子どもの貧困対策の目指すべきものにすべきと指摘している。
- その上で、子どもの貧困問題は「子どものwell-beingを追求する権利の不全および自由の欠如」(志賀、2018:121)と捉え、そうした権利や自由の保証こそ子どもの貧困対策において保証すべきだと述べている。
- 投資効果に基づいて、子どもが選別されるのではなく、子ども的人格・発達を目的とし、多様な個人のあり方を尊重する。

すべての子どもが自分の可能性に気づき、最大限に発揮できる。
そんな社会を実現させるために、私たちは走りつづけます。

子どもの貧困に、本質的解決を。

Learning
for
All 

LFAの仲間になる

3,000円で貧困をはじめとした
「困難を抱えた」子ども1人に
1日分の学習支援を届けることができます。
1日約100円の継続寄付で
子どもの可能性が大きく広がります。



子ども支援ナビにアクセス

こども支援ナビは、
困難を抱える子どもに対する
学習支援・居場所づくり・子ども食堂などを運営する方
向けの情報発信サイトです。



サイトからメルマガにも
ご登録いただけます